

小学校第2学年 図画工作科学習指導案（食育）

令和3年10月21日（木）第5校時
阿波市立林小学校 第2学年 松組 31名
指導者 T1 学級担任
T2 栄養教諭

1 題材名「元気いっぱい！べんとうをつくろう」

〈A表現（1）イ，（2）イ，B鑑賞（1）ア，共通事項（1）ア，イ〉

2 題材設定の理由

本学級の児童は明るく活発で、何事にも興味・関心をもって取り組もうとする姿が見られる。6月に「わっかでへんしん」という題材で、自分だけのぼうしをつくった際には、「紙を折り曲げると、おもしろいかざりができるかな。」「ぼうしのつばをぎざぎざに切ってみようかな。」などと言って試行錯誤しながら取り組んだ。しかし、どんなぼうしをつくったらいいのか分からずに困っている児童もいた。そこで、友達作品を観察したり、友達につくり方を教えてもらって自分も試したりすることで、作品のイメージが広がり、どの児童も楽しみながら学習に取り組むことができた。

本題材は、色画用紙や毛糸などの身近な材料を使って、オリジナルの弁当をつくる学習である。児童にとって、弁当は運動会や遠足の時に欠かせないもので、弁当にはどんなおかずが入っているのか楽しみにしている児童も多くいる。

今回は、オリジナルの弁当をつくることで、児童につくる意欲をもたせ、自分の考えや思いを作品に表現する楽しさを感じさせたい。活動のはじめに、弁当にどんなおかずを入れたいかを考えさせる。その際には本題材を扱う前に学級活動で学習した「三つのグループの食品」をもとに、黄・赤・緑の3色のグループを作りそれぞれの色に応じたおかずを考えるようにする。そうすることで黄・赤・緑のおかずをバランスよく弁当につめることができるように意識させたい。そして、自分の考えをしっかりとって作品に表現したり、友達と協力しながらよりよいものをつくり上げたりすることで、創造的につくったり表したりする技能を身につけさせたい。弁当の制作後は、作品について学級で話し合い、それぞれの弁当のよさを認め合うことで、また作品をつくりたいという意欲につなげたい。

これまでの食に関する指導では、1学期に小学校に併設する「林っこファーム」で夏野菜を育てて収穫し調理実習を行った。野菜の生長を観察する中で、野菜の色や形の特徴に気づくことができた。また、自分たちで育てた野菜を収穫し、調理した際には、「自分で作った野菜はおいしいな。」「苦手な野菜だったけど少し食べることができたよ。」などの声が子どもたちから聞こえてきた。また、6月には、徳島県学校食育推進パワーアップの授業で「好き嫌いなく食べよう」という学級活動を行った。野菜には多くの栄養があり、元気に生活するために野菜は欠かせないということを学習した。子どもたちは、野菜に親しみを感じ、積極的に野菜を食べようとする意識を高めることができた。

本時は、身近にある材料を使って、弁当をつくる活動の7時間目である。弁当の完成図を描いているのでそれをもとに弁当のおかずを一品つくり、自分なりの弁当を完成させる。自分の思いを込めた弁当づくりができるように、支援していきたい。また、作品を見て、互いの作品のよさを認め合うと

ともに、食事の重要性についての意識を高めたい。

3 題材の目標

- 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くことができるようにする。
- 手や体全体などを働かせ、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、つくってみたい弁当を創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- 形や色などを基に自分のイメージをもち、身近な材料を使って自分の思いが込められた弁当になるように考えながら、どのように表すかについて考えることができるようにする。
- 自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。
- つくり出す喜びを味わい思い描いた弁当を楽しく表現する活動に取り組もうとすることができるようにする。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。 ・手や体全体などを働かせ、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、つくってみたい弁当を創造的につくったり表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色などを基に自分のイメージをもち、身近な材料を使って自分の思いが込められた弁当になるように考えながら、どのように表すかについて考えている。 ・自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくり出す喜びを味わい思い描いた弁当を楽しく表現する活動に取り組もうとしている。

5 食育の視点

- いろいろな食べ物に対して興味・関心をもち、食事を楽しむ。(食事の重要性)

6 指導計画(7時間)

- 第1次 どんな弁当をつくりたいか考え、その弁当に入れたいおかずを決める。・・・1時間
 - 第2次 弁当に入れたいおかずを楽しんで表現する。・・・4時間
 - 第3次 弁当の完成図をもとにおかずを詰める。・・・1時間
 - 第4次 増やしたいおかずを一品つくって弁当を完成させ、互いに紹介する。・・・1時間
(本時)
- 事後指導 学年だよりなどで本時の活動内容を紹介し、家庭との連携を図る。

7 本時の学習

(1) 目標

自分がつくりたい弁当を、色や形、栄養のバランスなどを工夫してつくり、互いの作品のよさを認めることを通して、自分の見方や感じ方を広げることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体的評価規準	評価方法
5分	1 本時の学習のめあてを確認し、活動への意欲をもつ。	○ つくりたいものを確認させることで、本時の活動に入りやすくさせる。		
ふやしたいおかずをつくり、「元気いっぱい！べんとう」をかんせいさせよう。				
20分	2 増やしたいおかずを工夫してつくり、弁当を完成させる。	○ 表現したい弁当がつくれるような場の設定をしておく。	〔思考・判断・表現〕 形や色などを基に自分のイメージをもちながら、身近な材料を使って自分の思いが込められた弁当になるように考えている。	観察
20分	3 ペアや全体で、作品を紹介し合い、本時の学習をふりかえる。	○ つくった作品を紹介し、作品のよいところを認め合えるようにする。	〔主体的に取り組む態度〕 つくり出す喜びを味わい、思い描いた弁当を楽しく表現する活動に取り組もうとしている。	発言

(3) 評価および指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	自分がつくりたい作品をつくるために、色や形、材料の感じなどを捉えて表現したり、互いの作品のよいところを伝えたりすることで、自分の見方や感じ方を広げている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	つくりたい作品のイメージをもち、表現するために、色や材料についての助言をし、制作を支援する。